

第2回 ライフスタイルと関係人口に関する懇談会

事務局説明資料

令和2年8月4日

国土政策局 総合計画課

I. 前回の懇談会を踏まえた今後の議論の進め方

1. 今後の懇談会に向けた論点の整理

(第1回懇談会における委員の発言より)

関係人口の拡大・深化に係る全体的な課題

- ソフト及びハード両面からの議論が必要（モビリティの変化、交通手段の多様化等）。
← 当懇談会では、シェアリングの活用など、ソフト面からの議論を行ってはどうか。
- 地域に赴くための金銭的負担を如何に緩和していくかを検討する必要。
← 当懇談会では、シェアリングの活用などの観点からの議論を行ってはどうか。
- 新型コロナウイルスの感染拡大が社会的・経済的なダメージを与えている状況を踏まえ、関係人口の意義を再定義すべき。関係人口として地域に関わっていれば、災害時等において、関わり先をもう一つの拠点として活用することが考えられるなど、関係人口の多面的機能を整理する必要がある。

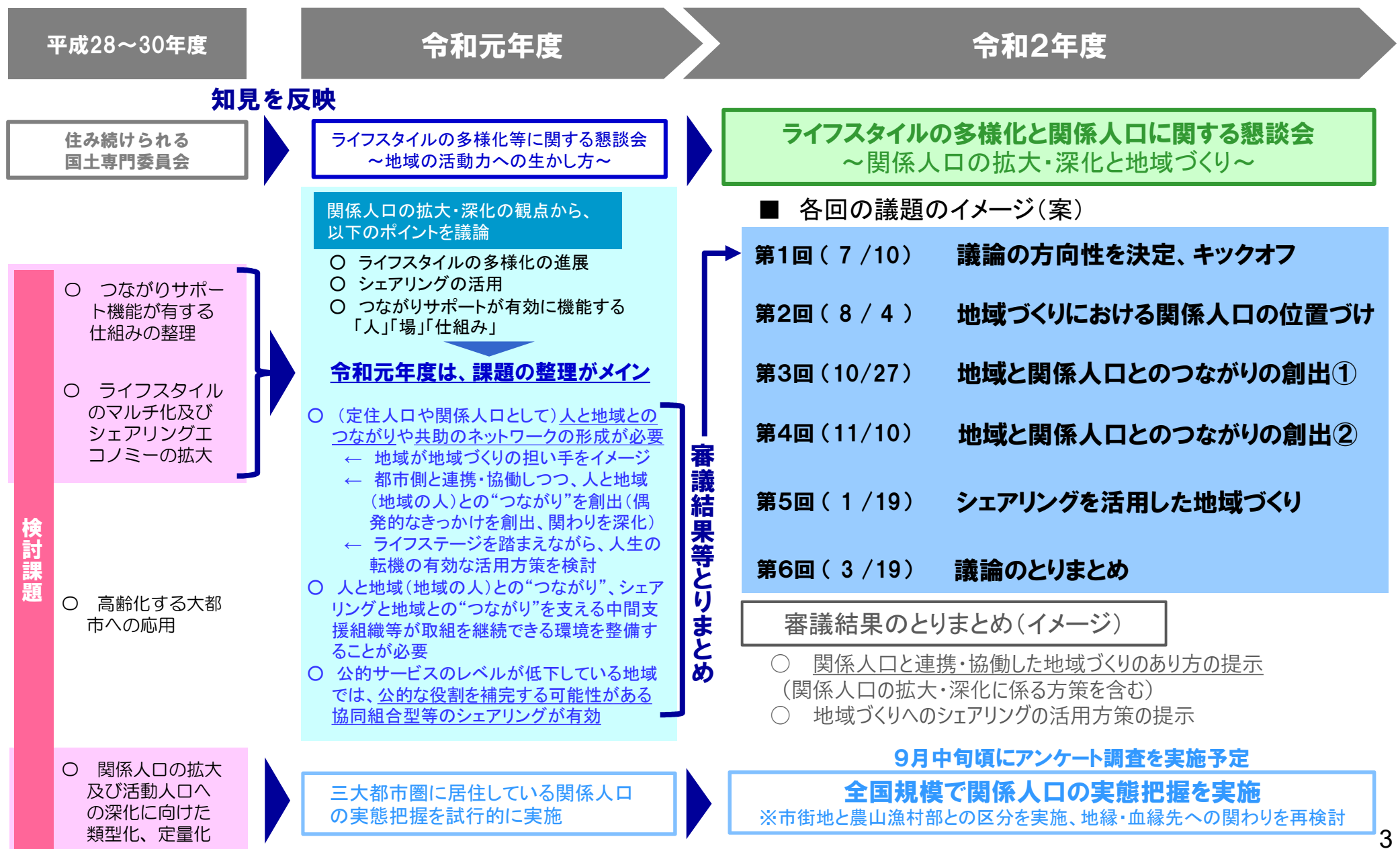
つながりのサポートを円滑に進めていくための論点

- オンラインの活用が進んでいく中、つながりをサポートするに当たっては、地域側のデジタル技術及びオンラインコミュニケーションに係るスキルをどう高めていくかが課題（地方部では、インターネット環境等ハード面でも課題がある）。
← インターネットを活用したオンライン関係人口は、自由に人を集めることができるため、関係人口の裾野を広げる可能性
← 一方で、オンラインの交流とリアルの交流の相互補完が重要
- 継続性の観点からは、地域づくりの担い手となり得る地域側の関係案内人の世代交代を円滑に進めていくこととなるが、幅広い人間関係資本を持っている外部人材を活用していく必要。
- 地域側の関係案内人と都市圏をつなげていくことが重要。

国土構造的な観点からの課題（参考）

- 新型コロナウイルスの感染拡大による失業対策として給付金をばらまくのではなく、労働力として地方に人材を送り込み、耕作放棄地での営農に従事させる等、国土を管理する視点での対応が必要ではないか。
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、都市部の企業では在宅勤務の推奨やオフィスの廃止が進んでいることから、今後は、社員が住みたい場所に住めるように企業がサポートすることが必要ではないか。
- 新型コロナウイルスの感染拡大は、定住場所を持たないアドレスホッパー等を増加させる可能性があることから、このような人たちの動向を如何に把握するかが課題。

2. 検討に係るロードマップ（見直し案）



3. 前懇談会で整理された課題と本懇談会の論点

前懇談会で整理された課題

1. 人と地域とのつながりによる地域づくり

(定住人口や関係人口として) 人と地域とのつながりや共助のネットワークの形成が必要

← 地域が地域づくりの担い手をイメージ（地域の主体性を確保）

← 地域側と都市側が連携・協働しつつ、人と地域（地域の人）との“つながり”を創出（偶発的なきっかけを創出、関わりを深化）

← ライフステージを踏まえながら、人生の転機の有効な活用方策を検討

2. 取組が持続可能となる環境の整備

人と地域（地域の人）との“つながり”、シェアリングと地域との“つながり”を支える中間支援組織等が取組を継続できる環境を整備することが必要

3. シェアリングを活用した共助システムの構築

公的サービスのレベルが低下している地域では、公的な役割を補完する可能性がある協同組合型等のシェアリングが有効

本懇談会における議論の進め方(案)

第2回 地域づくりにおける関係人口の位置づけ

関係人口と連携・協働した地域づくりに係る事例など

委員からのプレゼン等

検証・議論

地域づくりにおける関係人口との関わり方を整理

第3回及び第4回 地域と関係人口とのつながりの創出

関係人口とのつながりの創出に係る事例など

委員からのプレゼン等

検証・議論

地域と関係人口とのつながり創出に向けて必要な要素を整理

第5回 シェアリングを活用した地域づくり

地域づくりにシェアリングを活用した事例など

委員からのプレゼン等

検証・議論

地域づくりへのシェアリング活用方策を整理

第6回 議論のとりまとめ

これまでの議論を総括し、関係人口と連携・協働した地域づくりのあり方及び地域づくりへのシェアリングの活用方策を整理

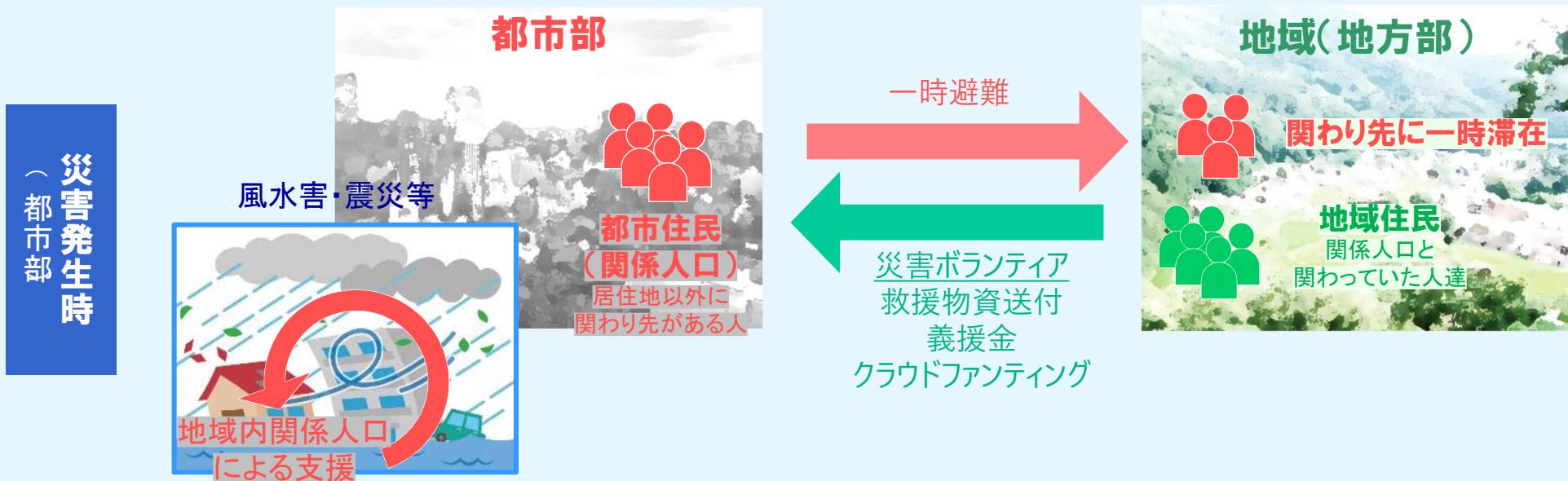
II. 関係人口の多面的機能

4. 関係人口の多面的機能①（都市部の住民が地方に関わりを持っている場合） 国土交通省

都市部において風水害、震災等の自然災害が発生

■ リアルな交流を含めた相互支援を期待（オフラインの交流と“心のつながり”）

- 関係人口として関わり先がある都市住民は、都市部において災害が発生した際、関わり先に一時避難することが可能となるのではないか。
- また、関わり先の地域住民が被災地での災害ボランティアに参加することや、関係人口に対して救援物資を送付することが期待される。



5. 関係人口の多面的機能②（都市部の住民が地方に関わりを持っている場合） 国土交通省

地方部において風水害、震災等の自然災害が発生

■ リアルな交流を含めた相互支援を期待（オフラインの交流と“心のつながり”）

- 関係人口として関わり先がある都市住民は、関わり先において災害が発生した際、そこに災害ボランティアとして赴いたり、救援物資を送付すること等が期待される。
- また、災害を契機に地域に関心を持つ人達が一定程度あらわれ、同様の活動を行うことが期待できる。



6. 関係人口の多面的機能③ (都市部の住民が地方に関わりを持っている場合) 国土交通省

パンデミックが発生 ← 基本的には、不要不急の移動や接触が妨げられる

■ オンラインを中心とした相互支援を期待 (リアルでの交流は縮小し、“心のつながり”がメイン)

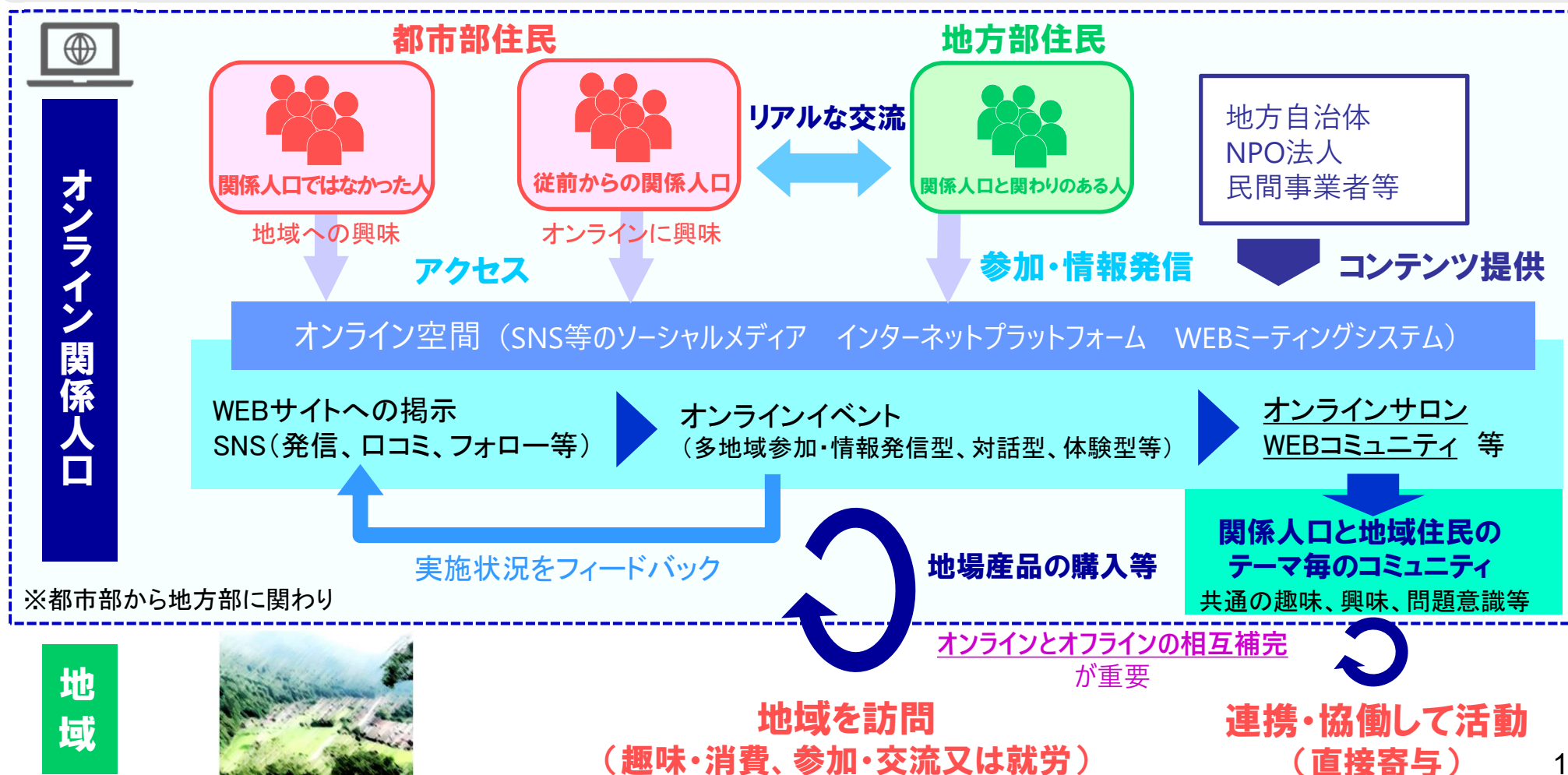
- パンデミックは、通常の災害と異なり影響範囲がボーダレスで拡大し、全国的にリアルな移動や交流を妨げることとなることから、オンラインを通じた相互扶助が中心となると思料。
- 従前からの関係人口や感染症拡大を契機として地域に関心を持った人と地域が“オンライン関係人口”としてつながり、オンラインの体験型コンテンツ等を通じて心のつながりを確保しつつ、地場産品の購入等により相互支援を行うのではないかな。



Ⅲ. オンライン関係人口

7. オンライン関係人口の拡大・深化

- オンラインイベント等は、リアルイベントと比較して、参加側の参加へのハードルが低いことや時間的制約が少ないことに加え、コンテンツ提供側には地理的な制約がなくなる等、新たな出会いの場を気軽に提供することが可能であり、関係人口の裾野の拡大に寄与。
- オンラインによる関係人口と地域との接触機会の拡大は、関係人口の地域への興味を増進させ、地域への訪問を促す。
- オンライン上でのイベントやコミュニティ形成を成功させるためには、コンテンツの固着性の確保や関係案内人であるオンラインファシリテーターが必要不可欠である。



8. オンライン関係人口の可能性

オンライン関係人口のメリット

- 距離的な制約、予算規模による差異が小さく、すべての地域との交流が容易に可能
 - ← イベント参加等への心理的ハードルが低いことから、地域のファンを増加させる
 - ← 地域との接触機会を増やし、地域への訪問の動機付けに寄与
 - ← あらゆるプレーヤーが一堂に会することができることから、交流の質が向上
- リアルなイベントでは開催が困難である新たなコンテンツの提供が可能であり、新たな層の発掘が可能
- オンラインを通じた関係性をあらかじめ構築しておくことは、地域に実際に赴く際の障壁を下げる
- 直接的な交流が困難な状況になった場合においても、オンライン上で“つながる”ことができ、オンラインを通じた相互支援を行うことや、“心の拠り所”を得ることが可能

オンライン関係人口創出における課題

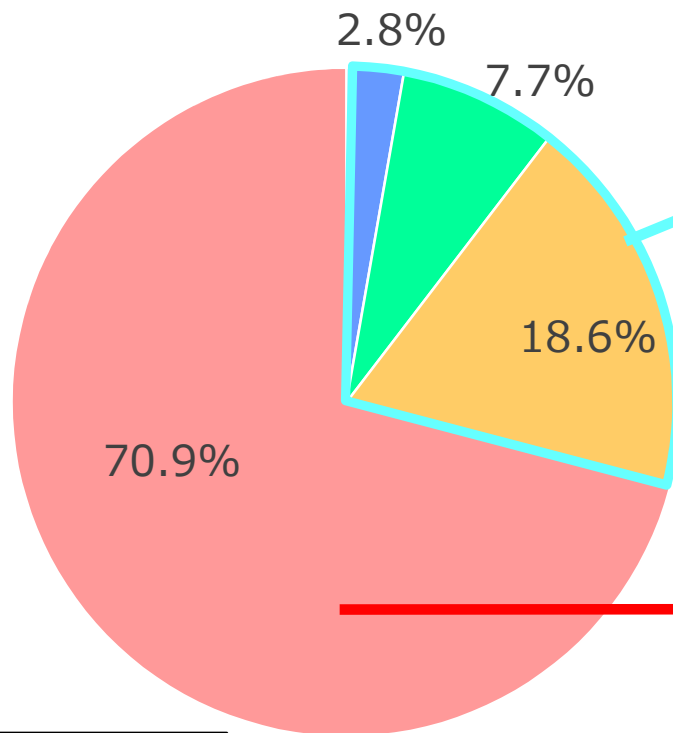
- 現状では、地域に興味がある人（リアルな交流があった人）がオンライン関係人口となっていることから、地域がオンライン上で取り組みの積み上げを行うことにより、オンライン関係人口の底上げを図ることが必要。
- 地域側のインターネットインフラ（高速回線）、デジタル技術活用スキル、オンラインの活用に関するコミュニケーションスキル等の向上が必要
- オンラインの交流とリアルな交流との相互補完が必要（オンラインの交流はリアルな交流を完全には代替しない、リアルでの交流には価値がある）
- 取組の持続可能性の観点から、オンライン関係人口の創出に係るコンテンツを提供している事業者の経営的な安定性の確保が必要
 - ← コンテンツの有料提供（事業化）は、コンテンツの品質向上が期待できるほか、参加者の参加意欲の向上につながるのではないか
 - ← 既存のプラットフォームを活用することにより、コストを低減することが可能となるのではないか
- オンラインでの交流は、意識や意図がある人が集まる集合体であることから、アウトオブフレーム（枠外）の偶発性を確保することが必要

IV. 地域づくりにおける関係人口の位置づけ

9. 居住地での地域活動への参加状況

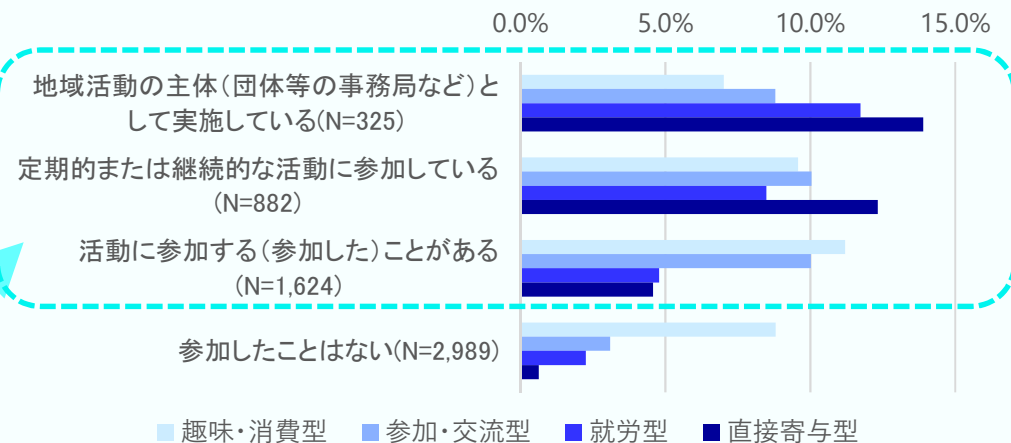
- 三大都市圏居住者の約7割の人が居住地での地域活動に参加したことがない状況
- 地方部の傾向については、今年度、調査を実施する予定であるが、同様の傾向であると思料
- **地域住民に対して、地域活動への参加を促していくことが重要**

- 地域活動の主体(団体等の事務局など)として実施している
- 定期的または継続的な活動に参加している
- 活動に参加する(参加した)ことがある
- 参加したことはない



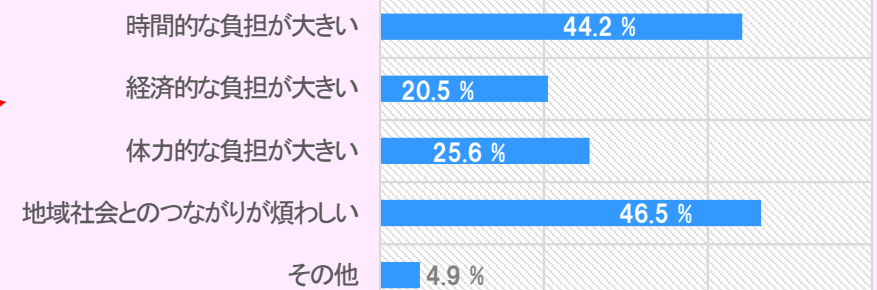
回答者総数: 28,466人

地域活動に参加している人が関係人口(訪問系)となった割合(大分類ごと)



地域活動に参加しない理由

※ 複数回答可

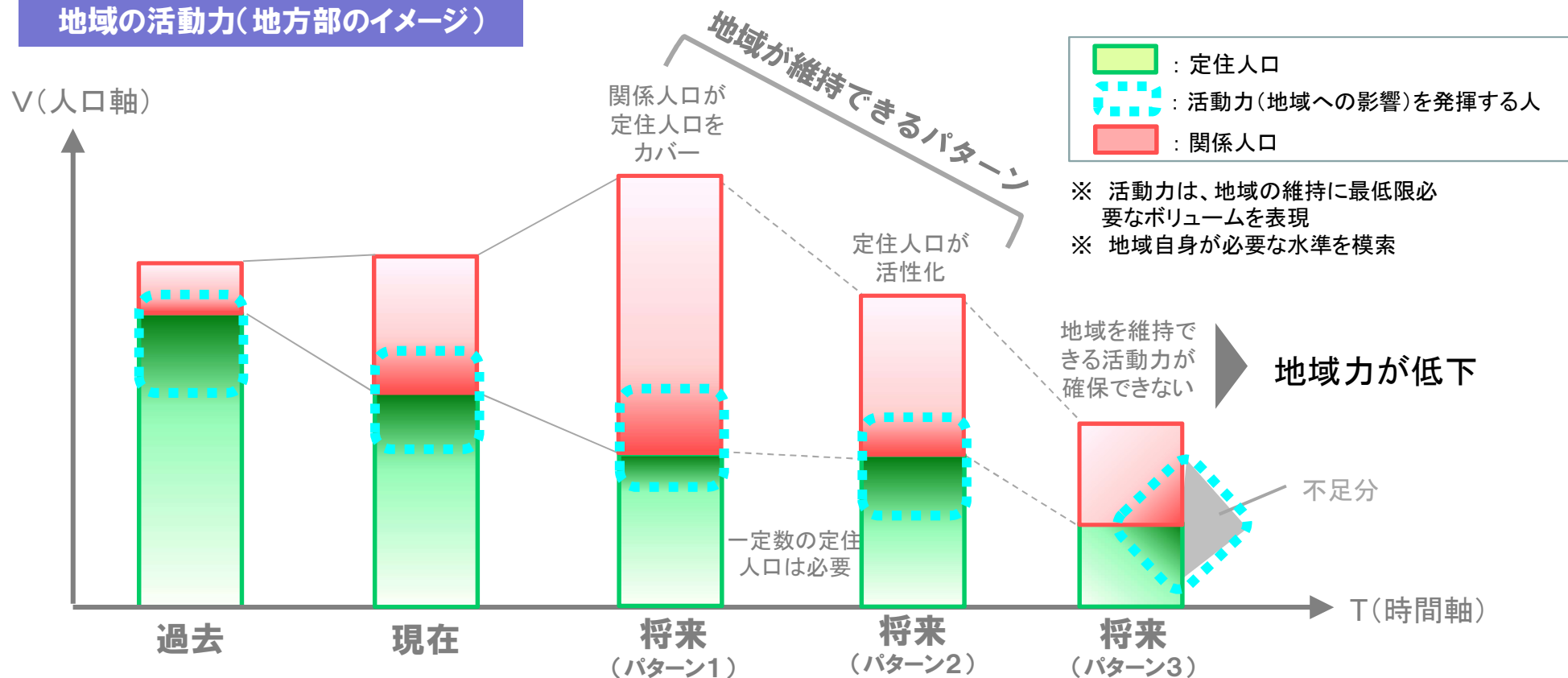


(参考1) 関係人口と地域づくり

- 人口減少、少子高齢化が進行している地方部において、地域づくりを進めていくためには、地域の主体性を前提としつつも、外部アクターとの連携を強調する「新しい内発的发展」を実現していく必要がある。
- 外部アクターの一例としては関係人口が想定され、意欲の高い地域住民と関係人口が共通の価値観でつながる新たなコミュニティを形成しつつ、連携・協働しながら地域づくりに取り組んでいくことが重要となる。
- 地域住民と関係人口が連携・協働するにあたっては、地域側が目指すべき方向性を明確化し、関係人口とどのように連携・協働していくのかについて、予め地域側で話し合いをしておくことが必要なのではないかと史料。

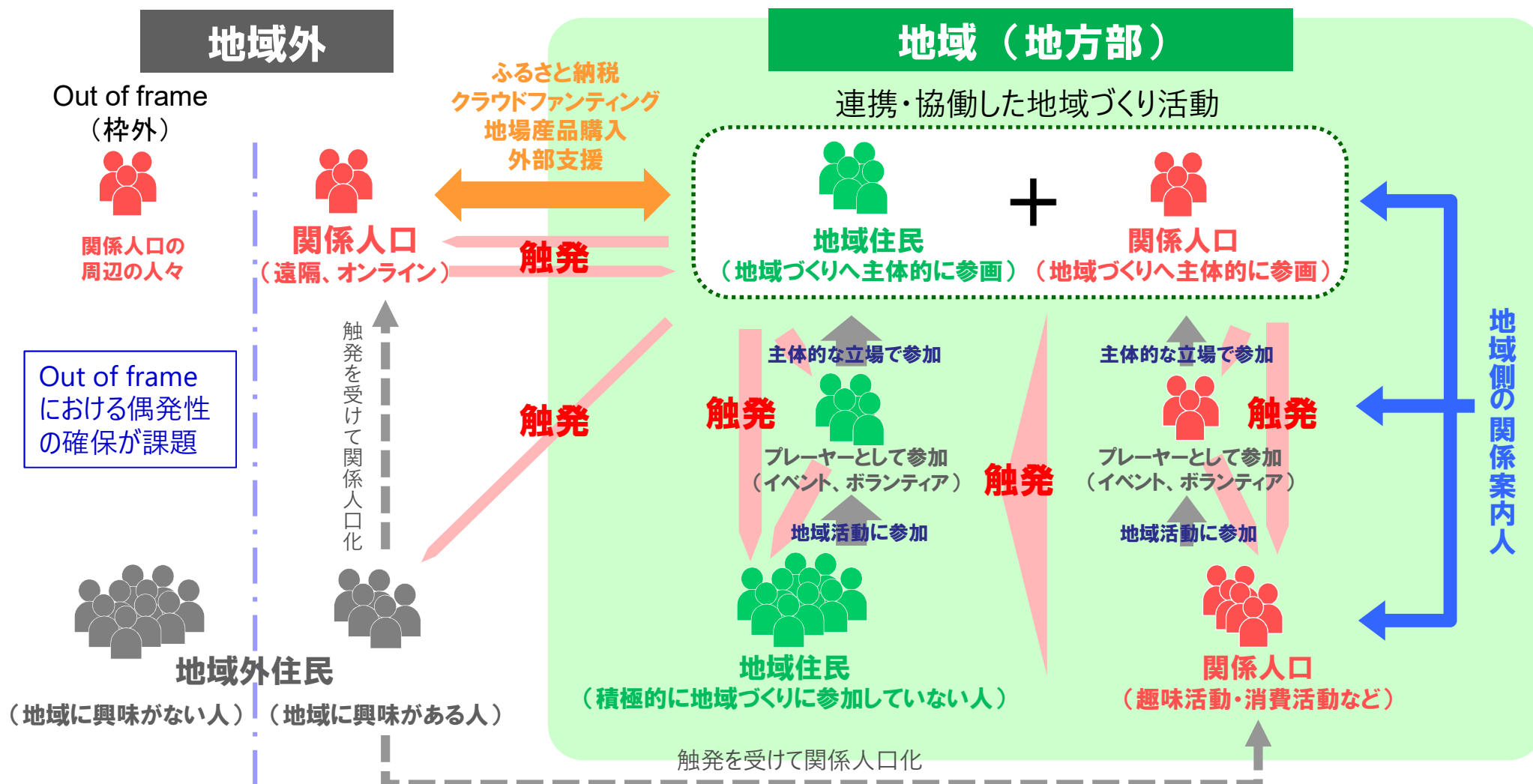
地域の課題解決等に必要な「活動力」は、地域が求める水準に従って、地域ごとに異なると史料される

地域の活動力(地方部のイメージ)



10. 地域に関係人口が増えることのメリット

- 地域に多様な関係人口が存在することにより、地域住民と関係人口が連携・協働した地域づくり活動につながり、地域づくりの質と量の向上が期待できる。
- また、地域における多様な関係人口の存在は、様々な地域住民及び関係人口を触発し、地域の内発的発展への直接的な寄与を促すことにつながるのではないか。

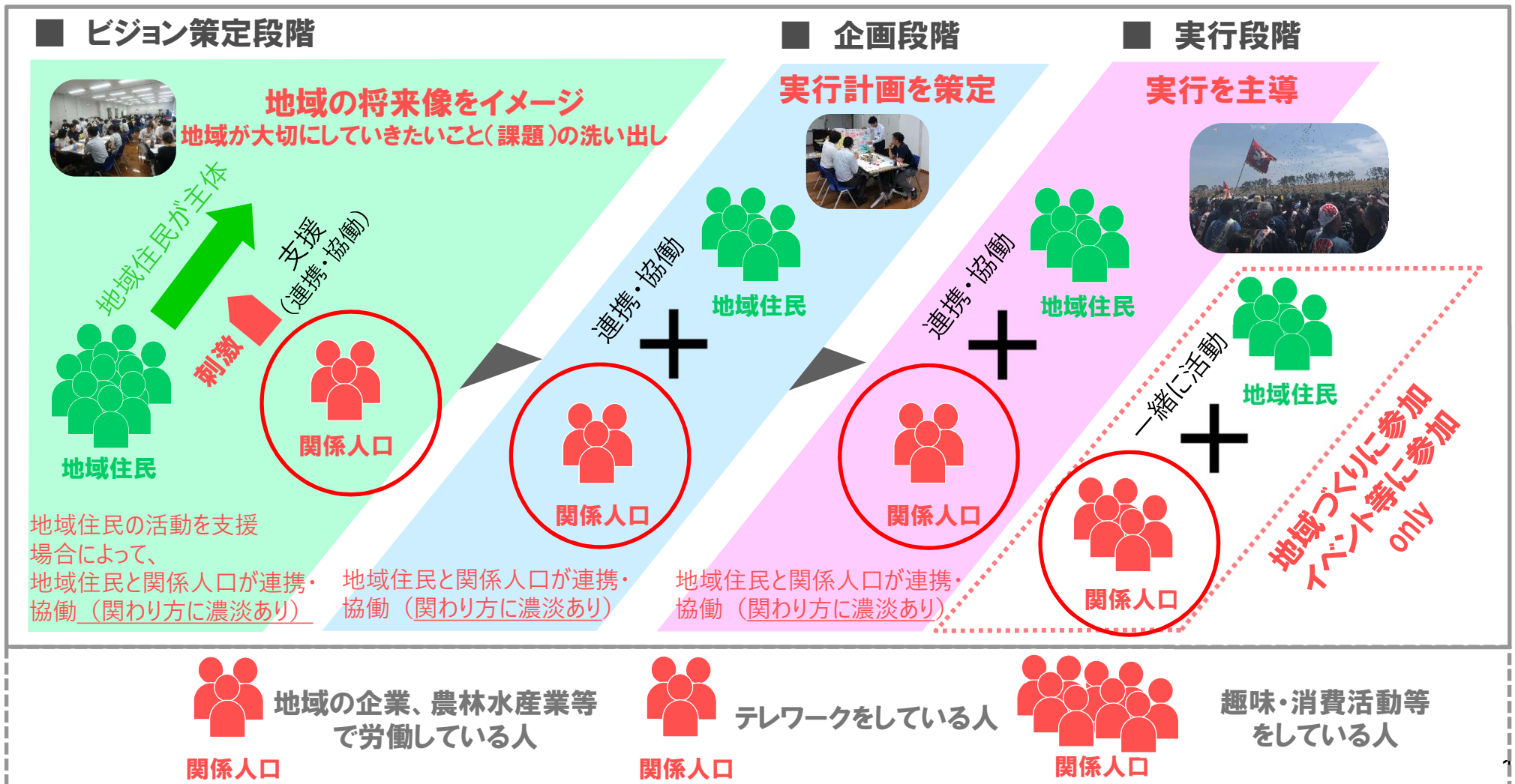


11. 関係人口の地域づくり(地域活動)への関わりのイメージ

- 関係人口の地域づくり(地域活動)への関わりについては、それぞれの地域・ケースにおいて多種多様であるが、関係人口にはビジョン策定段階、企画段階、実行段階等の各段階で、(単純な参加から積極的な参画など) 濃淡のある多様な関わり方での活躍が期待される。

○ 地域づくり(地域活動)のイメージ

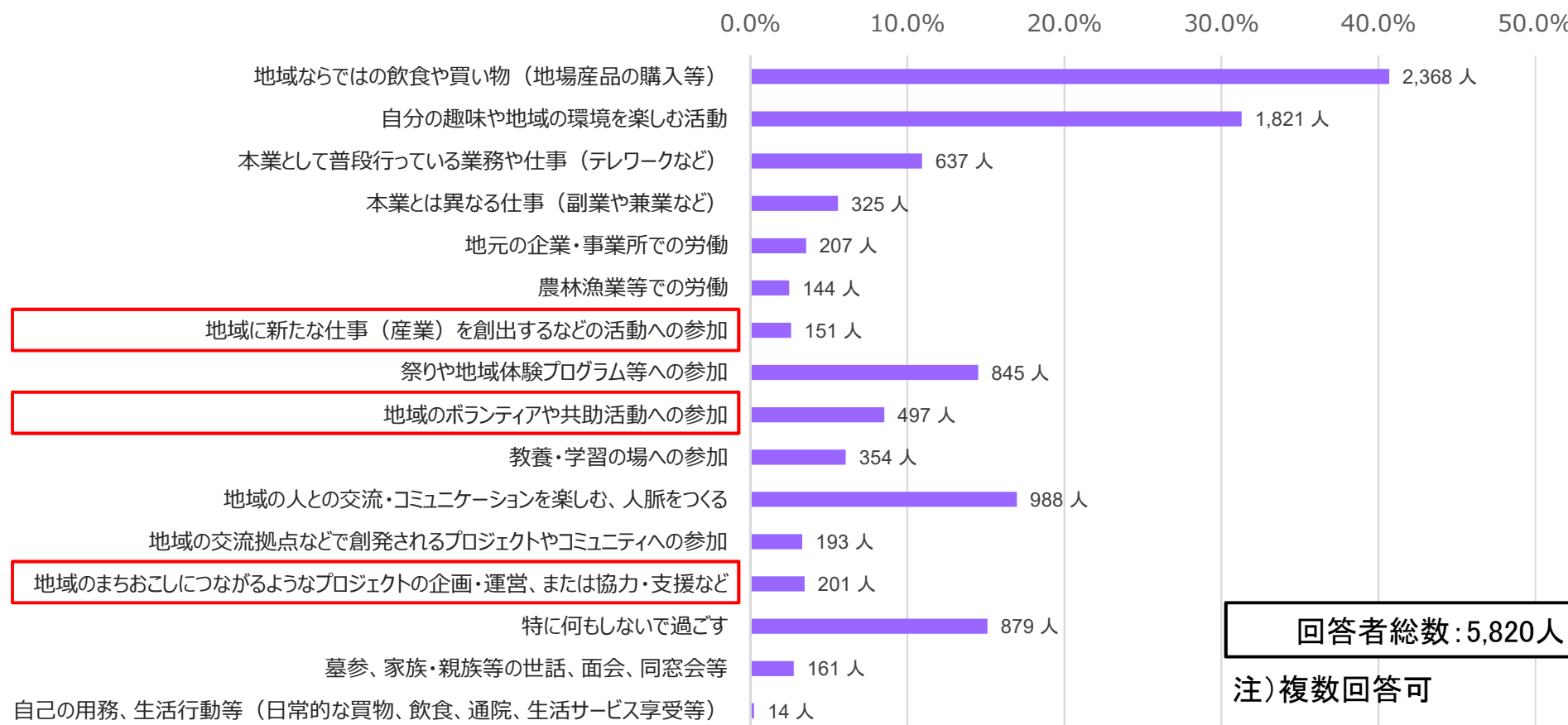
※ 写真はイメージであり、実際の地域づくりのものではありません



12. 関係人口(訪問系)の関わり先での過ごし方

- 関係人口(訪問系)の関わり先での過ごし方については、地域ならではの飲食や買い物、自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動を行っている人の割合が高い。
- 主体的に地域づくりへ参加するなど、地域との結びつきの強い関係人口の割合は高くない。
- よって、多様な関係人口の存在を認めつつも、地域との結びつきの強い関係人口を増やしていく必要がある。

関係人口(訪問系)の関わり先での過ごし方



(参考2) 地域と関係人口の視点

- 地域の維持・向上に必要な定常的な活動力は存在しないことから、前述のとおり、地域側が目指すべき方向性を明確化し、関係人口とどのように連携・協働していくのかについて、予め、地域側で話し合いを行うことが重要。
- ただし、内発的発展に直接寄与しない関係人口も地域に刺激を与える等、地域が変容していくきっかけとなることから、幅広い関わりを受け入れる土壌が求められる。
- 地域に行く側と地域に迎える側がwin-winの関係性を築き、相互が変容していくことが重要となる。

活動力を提供する関係人口の拡大・創出に向けて

地域に行く側の視点 (ex 都市側)

- 自己実現、ビジネスチャンス拡大等の観点から、地域に関わりたい、地域を訪問したいという希望・欲求
← 動機付けが重要(人間は感情の生き物)
- 自己の満足度を高めるとともに、地域との信頼を構築し、関係性を深めていく活動を模索
- 可能な限り、自らの持つスキルを最大限活用できる活動であることが理想

出会いとつながりを
サポートすることが重要

地域に迎える側の視点 (ex 地方側)

- 地域自らが(場合によっては外部アクターと連携しつつ)、地域のあり方をイメージ
- 地域の維持・向上又は地域ビジョンの実現に必要な活動要素を地域が洗い出し
【地域が必要としている活動力・活動量】
- 地域が定住者の現状から勘案し、「地域として求めている関係人口」を明確化するとともに、関係人口のために何ができるかを思考

偶発性を生み出すことが重要

人と地域が出会い、つながることによって、相互が変容

■ 地域づくりにおける関係人口の立ち位置

- 地域における理想的な関係人口のあり方。

論点の例 : win-winの関係性、地域住民の変容（行動及び意識）

- 地域側としては、関係人口との連携・協働をどのようにイメージすればよいか。

論点の例 : 地域づくりの方向性、地域の魅力の再発見、
地域ビジョンの中の関係人口の位置づけ

- 関係人口と連携・協働するにあたって、地域側が整えておく必要があるものとは何か。

論点の例 : 地域の受入体制、つながりのサポート、継続性の担保

V. 関係人口の実態把握の見直し

14. 令和2年度 関係人口の実態把握の特徴

1. 全国規模でのインターネットアンケート調査を実施

三大都市圏及びその他地域に区分し、全国レベルの調査を実施

2. 二次調査の対象範囲

日常生活圏、通勤圏、業務上の支社・営業所訪問以外に定期的・継続的に関わりがある地域があり、かつ、訪問している人（帰省を含む）及びふるさと納税、クラウドファンディング、オンライン等を通じて地域との関係性を有している人

← 関係人口の範囲の再検討が可能

3. 関わり先の詳細な把握

関わり先の地域について、市区町村名に加え、市街地部、郊外部、農村漁村部等の詳細な場所を把握

4. 地域との関わり方の詳細な把握（詳細かつ複層的な質問項目を設定）

地域との関わり方の内容については、より詳細に把握できるよう細分化するとともにクロス分析が可能となる質問項目を設定

← 関係人口の大分類の再検討が可能

5. 関係人口の動態性を把握

- ① PUSH要因及びPULL要因の把握
- ② 取組の深化の過程を把握
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を把握

15. インターネットアンケート調査 目標サンプル数

項目	前回調査	今回調査
調査期間	・2019年9月13日(金)-18日(水)	・2020年9月中旬(予定)
調査名称	・「地域との関わりについてのアンケート」	・前回調査同様
調査方法	・インターネットWEBアンケート調査	・前回調査同様 ※但し、WEBリサーチ会社変更
対象地域	・18歳以上の三大都市圏の都市部居住者	・18歳以上の三大都市圏＋その他地域の居住者
目標サンプル数	①三大都市圏の都市部 ・一次調査:30,000サンプル ・二次調査:15,000サンプル (うち、非訪問系5,000サンプル)	①三大都市圏の都市部 ・一次調査:60,000サンプル ・二次調査:20,000サンプル ②その他地域 ・一次調査:60,000サンプル ・二次調査:20,000サンプル
回収結果	①三大都市圏の都市部 ・一次調査:29,254サンプル ・二次調査:10,482サンプル	-----

16. 調査フロー

【一次調査：過去(新型コロナ感染拡大直前)を把握】

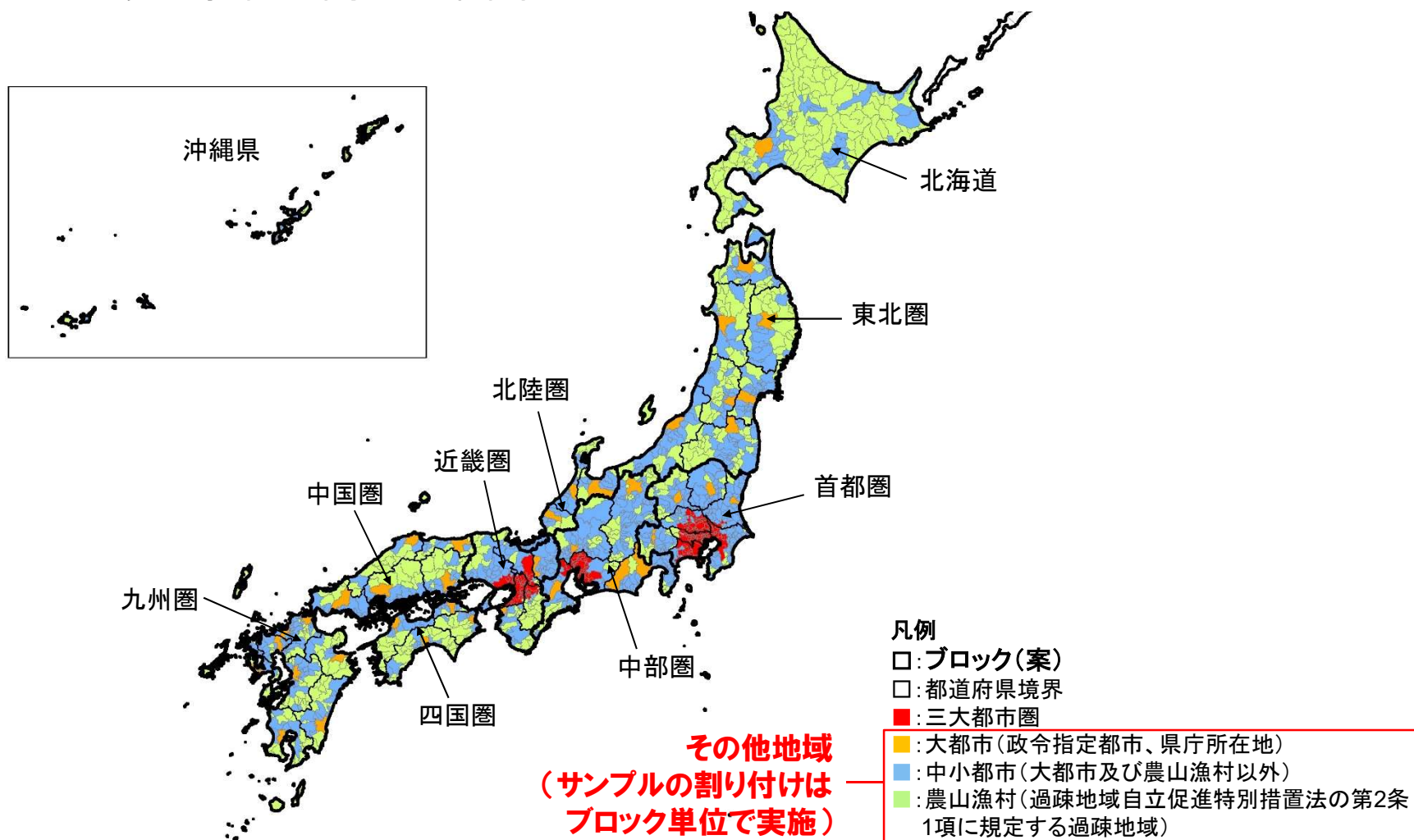


【二次調査：過去(新型コロナ感染拡大直前)、現在(新型コロナ感染拡大期)、将来(新型コロナ感染終息後)を把握】

19. 調査対象範囲

- 全国規模で関係人口の実態を把握するために、三大都市圏(昨年度調査範囲と同様)及びその他の地域を調査対象範囲として設定。

■ 関係人口の実態把握の調査対象範囲



20. 関わり先(市街地部、農山漁村部等)の詳細な把握 国土交通省

- 関係人口の関わり先の地域について、市区町村名と合わせて、市街地部、郊外部、農山漁村部等を質問し、より詳細な把握を実施。

■ 関係人口の関わり先の地域の詳細把握に向けた設問イメージ

Q: 関わりのある市区町村における、関わり先の地域イメージについて教えてください。

(複数選択可能、各選択肢の定義は以下のとおり)

選択肢	用語の定義
①市街地部 (商業集積地、オフィス街等)	・商店街、飲食街、ショッピングセンター、多事業所ビル(駅ビル、百貨店等)、オフィスビル等が立地する地域
②市街地部(住宅地)	・市街地部(商業集積地等)、又はその周辺に広がる住宅地域
③市街地部(市街地内農林地等)	・市街地部(商業集積地、住宅地等)に立地する農地(貸農園等含む)、林地等
④郊外部(郊外住宅地)	・市街地部周辺に広がる郊外住宅地
⑤郊外部(周辺農林地等)	・市街地部周辺に広がる周辺農地(貸農園等含む)、周辺林地等
⑥農山漁村部	・市街地部、郊外部から離れており、周辺に農地や森林、又は海岸等の自然豊かな環境が広がる地域
⑦その他(自由記述)	-----

21. 地域との関わり方の詳細な把握（一次調査）

- 一次調査における地域との関わり方の設問（スクリーニング）においては、多地域居住（⑦）、二地域居住（⑧）、オンライン関係人口（⑯）に関わる選択肢を新規に追加。

■ 地域との関わり方を把握するための設問イメージ

Q: コロナ禍直前の居住地（日常的な生活圏）や通勤・通学先以外の地域について、以下の①～⑯のそれぞれの地域の有無を教えてください。（⑦・⑧以外は居住地と同じ市区町村内の地域を含む）

関わり	関わりの段階性	設問の選択肢（⑦、⑧、⑯を新規に追加）
	頻繁な訪問者	①（観光及び業務目的以外で使用する）滞在拠点がある又は知人・友人がいることから、定期的又は継続的に特定の地域を訪問している →（変更）短期的な滞在場所がある又は知人・友人がいることから、観光及び業務目的以外で定期的又は継続的に特定の地域を訪問している ※⑦・⑧との差異を明確にするために文章を変更 ②コワーキングスペース・サテライトオフィス等の活動拠点があり、特定の地域を訪問している ③会社の支社・営業所等があり、特定の地域を訪問している ④副業や兼業等を目的として、特定の地域を訪問している ⑤イベント参加、地域の人とのコミュニケーションを図る目的などで、特定の地域を定期的又は継続的に訪問している ⑥地域づくり、地域貢献活動又はボランティアなどで、特定の地域を訪問している
	多地域居住者 二地域居住者	⑦住民票を登録している市区町村以外に居住する（又は長期的に滞在する）ための地域が2つ以上あり、定期的又は継続的に訪問している ⑧住民票を登録している市区町村以外に居住する（又は長期的に滞在する）ための地域が1つあり、定期的又は継続的に訪問している
	（地縁・血縁者）	⑨地縁がある又は血縁者のいる地域に訪問している（お盆や正月の帰省を除く） ⑩お盆や正月に帰省を行っている
	特定地域の応援者	⑪ふるさと納税によって、特定の地域を継続的に応援している ⑫クラウドファンディングによって特定の地域を継続的に応援している ⑬地場産品等を購入することにより、特定の地域を定期的・継続的に応援している ⑭都市部にいながら、特定地域のためになる仕事を請け負っている ⑮SNS等で、自分の住んでいる地域以外の特定の地域の情報発信を行っている
	オンライン関係人口	⑯オンライン（zoom、Slack等）を活用して、特定地域と定期的又は継続的に関わっている
-----	-----	⑰上記の他、（観光及び販促等の営業活動以外で）特定の地域を定期的又は継続的に訪問している ※「ある」をお選びの方は訪問目的を自由記入欄にご記入ください。

22. 地域との関わり方の詳細な把握（二次調査①）

1) 訪問先での「活動力」と「活動量」の把握

- 訪問先での「活動力」は「訪問先での過ごし方」の設問で把握。
- 訪問先での「活動量」は「地域と関わり始めてからの年数」・「頻度・滞在期間」・「訪問先での過ごし方（活動）の数」の3つの評価軸で把握。

活動量の評価軸	設問
・地域と関わり始めてからの年数	Q(追加設問): 地域を訪問し始めてからの年数について教えてください。
・頻度・滞在期間	Q: その地域を訪問する頻度を教えてください。 1: 月に10回以上 2: 月に数回 3: 月に1回程度 4: 盆・正月・GWなどの長期休暇ごと 5: 年に数回 6: 年に1回程度 7: その他(自由記入) Q: 1回の訪問で、どの程度期間(時間)滞在することが多いですか。 1: 半日程度(日帰り) 2: 丸1日程度(日帰り) 3: 1泊2日程度 4: 2~4泊程度 5: 1、2週間程度 6: 1ヵ月程度 7: その他(自由記入)
・訪問先での過ごし方(活動) →メイン活動とサブ活動の関係性から、活動量を評価(例: どのようなメイン活動だとサブ活動が活発(量が増えるか)になるか等)	Q: 訪問先において、どのような過ごし方をすることがありますか。最も力を入れている活動(1つ回答)とその他力を入れている活動(複数回答)を教えてください。 ・訪問先での過ごし方(活動)に関する選択肢

23. 地域との関わり方の詳細な把握（二次調査②）

2) 地域での過ごし方の詳細化

- 地域での過ごし方の詳細化を図るために、二次調査の訪問先での過ごし方に係る設問の選択肢を細分化・追加（赤字箇所）。
- 訪問先での過ごし方を複数回答にすることにより、「回答者の訪問先でのメインの過ごし方（力を入れている活動）」が埋もれてしまうため、1: 訪問先でのメインの活動（上位3位まで回答）、2: 訪問先での各メインの活動から派生するサブの活動（複数回答）の2パターンの質問を設定。

活動区分	訪問先での過ごし方（又は地域との関わり方）の選択肢（複数回答）	メインの活動	サブの活動
地域づくりの企画	・地域の交流拠点などで創発されるプロジェクトやコミュニティへの主体的な参加 ・地域のまちおこし・むらおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営、又は協力・支援等 ・地域に新たな仕事（産業）を創出するなどの活動への参加	訪問先でのメインの活動 上位3位まで を回答	訪問先での各メインの活動から派生するサブの活動を複数回答
地域づくりへの参加	・地域でのボランティアや共助活動への参加 ・（追加）農地、水路、森林等の地域資源の共同保全活動への参加 ・（追加）まちなみ保全などの共同活動への参加		
地域産業の活性化	・地元の企業・事業所での労働（地域における副業） ・農林漁業等での労働 →（細分化）農林漁業への就業 →（細分化）農林漁業者のサポート（援農等） ・（追加）商店街の空き店舗有効活用に関する活動への参加 ・（追加）朝市・マルシェへの出店に関する活動への参加		
地域住民との交流	・地域の人との交流・コミュニケーションを楽しむ、人脈をつくる		
イベント参加	・祭りや地域体験プログラム等への参加 ・教養・学習の場への参加		
趣味・消費活動等	・地域ならではの飲食や買い物（地場産品の購入等） ・自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動 ・（追加）市民農園・農業体験農園への参加 ・（追加）自家消費農業等の取組		
テレワーク/副業	・本業として普段行っている業務や仕事（テレワークなど） ・本業とは異なる仕事（副業や兼業など） →（変更）訪問地域外の業務や仕事（テレワーク/副業など）		
自己の用務	・自己の用務、生活行動等（日常的な買物、飲食、通院、生活サービス享受等） ・墓参、家族・親族等の世話、面会、同窓会等		
（非訪問の関わり）	・ふるさと納税によって、地域を継続的に応援 ・クラウドファンディングによって、地域を継続的に応援 ・地場産品等を購入することにより、地域を定期的・継続的に応援 ・遠隔で地域のためになる仕事を請け負い ・SNS等で地域の情報発信を行い応援 ・オンライン（zoom、Slack等）を活用して、地域と継続的に関わっている ・地域から応援・支援を受ける等の交流を行っている		
特になし	・特に何もしないで過ごす		
-----	・その他、特に行っている活動（自由記入欄あり）		

24. 関係人口の動態性①（PUSH要因、PULL要因を把握）

- 地域を訪問することとなったきっかけに関する設問において、関係人口のPULL・PUSH要因に関する選択肢を拡充。

■ 関係人口のPULL・PUSH要因の把握に向けた設問イメージ

Q: 地域を訪問することになったきっかけを教えてください(複数回答)。

分類	区分	選択肢
PUSH要因 (都市側)	外的要因	・(追加)企業の制度で副業が認められた ・(追加)企業の制度でテレワークが認められた ・仕事の関係で訪れたことがある
	内的要因	・(追加)働き方改革を背景として、地域に関心を持った ・(追加)自然災害(東日本大震災等)を背景として、地域に関心を持った ・(追加)現在と異なる暮らし方を求めて、地域に関心を持った ・地域に対して憧れや好感、関心、共感を持った
PULL要因 (地域側)	外的要因	・観光・レジャー、ボランティア、ゼミ合宿、地域体験モニターなどで訪れたことがある →(細分化)観光・レジャーで訪れたことがある →(細分化)災害ボランティアで訪れたことがある →(細分化)ボランティア(災害以外)で訪れたことがある →(細分化)ゼミ合宿、地域体験モニターで訪れたことがある ・(追加)滞在拠点、ワーキングスペース等を活用して、地域を訪れたことがある ・(追加)カーシェアリング等が充実していた ・(追加)クラウドソーシング、ワークシェア等が充実していた ・ふるさと納税やクラウドファンディング等を通じて興味がわいた ・地域の特産品の購入を通じて興味がわいた ・(追加)オンライン(zoom、Slack等)を活用した関わりを通じて興味がわいた ・かつて住んでいた・職場や学校などに通っていたことがある ・親族、友人・知人が住んでいる、住んでいた ・友人・知人等が訪れている、友人・知人に誘われた ・(追加)ゲストハウス・民宿等への宿泊を通じて、地域に興味がわいた ・(追加)地域事情(雇用、住居等)をしてくれる住民等との交流を通じて、地域に興味がわいた ・メディア(テレビ、雑誌)等を通じて得た情報に興味がわいた ・インターネットやSNSによって得た情報に興味がわいた
PUSH及びPULL要因	外的要因	・つながりをサポートする人や機関等から紹介を受けた
-----		・特になし ・その他(自由記入欄あり)

25. 関係人口の動態性②

（取組の深化及び新型コロナウイルス感染拡大の影響）

- 関係人口の動態性について、過去・現在・将来の時間軸で把握。
- 「地方での過ごし方」については、①地域との関わりを始めた当初、②新型コロナ感染拡大直前の2時点で調査することにより、関係人口の活動力のステップアップの実態を把握。

時間軸	関係人口の動態性	設問
新型コロナ 感染拡大直前 【過去】	・都市→地方の関わり方の実態	・地域との関わり方
		・地域と関わり始めてからの年数
	・地方での過ごし方及び非訪問の関わりの実態	・訪問頻度、訪問時滞在時間
		・新型コロナ感染拡大直前の“地域での過ごし方”（及び“非訪問の関わり”）
		・地域との関わりを始めた当初の“地域での過ごし方”（及び“非訪問の関わり”）
新型コロナ 感染拡大期 【現在】	・都市→地方の関わり方の変化	・新型コロナ感染拡大による行動の変化
新型コロナ 感染終息後 【将来】	・都市→地方の関わり方、及び地方での過ごし方の今後の意向	・今後の関わり

26. 関係人口の動態性③

(取組の深化及び新型コロナウイルス感染拡大の影響)

- コロナ禍における地域との関わり方の変化を把握。

■ 新型コロナウイルス感染拡大における行動の変化を把握するための設問イメージ

Q: 訪問地域における現状(コロナ禍)の関わり方について教えてください。

【訪問系】

- ① 地域との関わり方に変化はない
- ② 地域との関わりの頻度が減少した
- ③ 地域への直接の訪問を自粛又は休止したが、オンライン等を活用した関わりは継続している
- ④ 地域との関わり方がふるさと納税による応援に変わった
- ⑤ 地域との関わり方がクラウドファンディングによる応援に変わった
- ⑥ 地域との関わり方が地場産品等の購入による応援に変わった
- ⑦ 地域との関わり方がSNS等を活用した情報発信に変わった
- ⑧ 地域との関わり方がオンラインを活用したコミュニケーションに変わった
- ⑨ 地域との関わりを自粛又は休止した
- ⑩ 上記以外(自由記述)

【非訪問系】

- ① 地域との関わり方に変化はない
- ② 地域との関わりの頻度が減少した
- ③ 地域との関わりの頻度が増加した
- ④ 地域との関わりを自粛又は休止した
- ⑤ 上記以外(自由記述)

27. 関係人口の動態性④

（取組の深化及び新型コロナウイルス感染拡大の影響）

- 昨年度調査における「今後の地域との関わり方」を聞く設問については、新型コロナウイルス感染終息後の意向調査として位置づけ。
→設問内容（文章・選択肢）の変更点は次頁以降に整理。

区分	昨年度設問
訪問型 関係人口	Q: 現在、訪問先で行っているような過ごし方や活動は、今後も続けたいですか。 Q: 「続けたい」と思う理由を教えてください。 Q: 「続けたくない」と思う理由を教えてください。 Q: 今後、訪問先の地域や地域の人々との関係性をどのように深化・拡大していきたいですか。 Q: どのような点が改善されれば、今後、地域との関係性を深められると思いますか。 Q: 訪問先の地域は、移住先としてどのように感じられますか。 Q: 「移住したい」と思う理由を教えてください。 Q: 「移住したくない」と思う理由を教えてください。
非訪問型 関係人口	【例: ふるさと納税】 Q: ふるさと納税によって応援しているこの地域が、定期的または継続的に訪問・滞在して関わりを持つような地域になると良いと思いますか。 Q: ふるさと納税によって応援しているこの地域を訪問し、どのように過ごしたいと思いますか。 Q: ふるさと納税によって応援しているこの地域を「訪問しない理由」を教えてください。

28. 関係人口の動態性⑤

(取組の深化及び新型コロナウイルス感染拡大の影響)

設問内容	選択肢
Q: 現在、訪問先で行っているような過ごし方や活動は、今後も続けたいですか。 →(変更)コロナ禍前に訪問先で行っていたような過ごし方や活動をコロナ禍終息後も続けたいですか。 (以降、全てコロナ禍終息後における意向調査となります)	1: 続けたい 2: どちらかといえば続けたい 3: どちらかといえば続けたくない 4: 続けたくない (追加) 5: 上記以外(自由記入欄あり)
Q: 「続けたい」と思う理由を教えてください。(いくつでも)	1: 楽しい、リフレッシュできる 2: 生きがいを感じる、自分らしさや成長などを実現できる 3: 同行者や滞在先の人などが喜んでいる 4: いろいろな人との出会いやつながりがあり、共感を得ることができる 5: 人との出会いとつながりをサポートしてくれる人がいる 6: 収入源となっている 7: 本業の仕事がはかどる 8: 地域の良い変化を感じられる 9: 所属組織として取り組んでいる 10: 家族の事情や地域との関係性がある 11: その他(自由記入欄あり)
Q: 「続けたくない」と思う理由を教えてください。(いくつでも)	1: 時間的な負担が大きい 2: 経済的な負担が大きい 3: 体力的な負担が大きい 4: 自分にとってのメリットが感じられない 5: 有給休暇を取りにくい 6: 同居の家族や同行者の理解を得るのが難しい 7: 地域のことや地域活動に興味・関心がない 8: 他にやりたいこと、やるべきことがある (追加) 9: 今後の見通しが見つからないため 10: 特に理由はない 11: その他(自由記入欄あり)
Q: 今後、訪問先の地域や地域の人々との関係性をどのように深化・拡大していきたいですか。 →(変更)コロナ禍終息後、訪問先の地域や地域の人々との関係性をどのように深化・拡大していきたいですか。	1: 地域の人とのコミュニケーションを深めたい 2: より多くの人とのつながりを持ちたい 3: いろいろな分野の活動に参加したい 4: 地域のためになることにチャレンジしたい 5: 地域での趣味やライフワークを充実させたい 6: 概ね5年以内の移住や就労などを考えたい →(変更) 6: コロナ禍終息後に移住や就労などを考えたい 7: 概ね5年後以降の移住や就労などを考えたい【削除】 8: いま以上の関係性は求めている 9: 今後、関係性は続けにくい、続かない →(変更) 9: 今後の見通しが見つからないため、関係性は続けにくい、続かない 10: その他(自由記入欄あり)

29. 関係人口の動態性⑤

(取組の深化及び新型コロナウイルス感染拡大の影響)

設問内容	選択肢
Q: どのような点が改善されれば、今後、地域との関係性を深められると思いますか。(いくつでも) →(変更)どのような点が改善されれば、コロナ禍終息後、地域との関係性を深められると思いますか。(いくつでも)	1: 仕事やプライベートでの時間的な余裕の確保 2: 移動や滞在に伴う金銭的負担の軽減 3: 家族や同行者の理解、価値観の合う仲間の存在 4: 会社など所属組織の理解、テレワークや副業を認めるなどの制度化 5: 地域の人とつながりを持てる場の確保 6: 自分の能力・知識・経験などを活かせる機会の存在 7: 地域での活動に伴う収入の確保 8: その他(自由記入欄あり)
Q: 訪問先の地域は、移住先としてどのように感じられますか。	1: 移住したい地域である 2: どちらかといえば移住したい地域である 3: どちらかといえば移住したくない地域である 4: 移住したくない地域である
Q: 「移住したい」と思う理由を教えてください。(いくつでも)	1: やりたい仕事・生きがい・趣味がある(自分や家族) 2: 住環境に魅力を感じる 3: 自然環境が豊かである 4: 地域コミュニティやつながりに魅力を感じる 5: 子どもの教育や成長に好影響である 6: 実家・家業を継ぐ、介護など家庭の事情がある 7: 親族の近くに住むのが便利である 8: 生活費が安くなる 9: 都市機能が充実している 10: 通勤・通学に便利、進学・転職・起業などに有利である (追加) 11: テレワーク/副業の制度が活用可能となったため (追加) 12: 人口密度が低く感染症リスクが低下するため 13: その他(自由記入欄あり)
Q: 「移住したくない」と思う理由を教えてください。(いくつでも)	1: 今の生活に不満がない 2: 家族の生活環境を変えるわけにはいかない 3: 今の仕事を変えるわけにはいかない 4: 日常生活の利便性が良くない 5: 公共交通の利便性が良くない 6: 運転免許を持っていないから 7: 働き口が見つからないと思う 8: 収入に不安がある 9: 子育てや教育環境に不安がある 10: 医療・福祉に不安がある 11: 移住した後の人間関係に不安がある 12: 今の人づきあいがなくなりそう (追加) 13: 今後の見通しがつからないため 14: その他(自由記入欄あり)

30. 関係人口の動態性⑤

(取組の深化及び新型コロナウイルス感染拡大の影響)

設問内容(非訪問系共通)	選択肢
Q: 定期的または継続的に訪問・滞在して関わりを持つような地域になると良いと思いますか。 →(変更)コロナ禍終息後において、定期的または継続的に訪問・滞在して関わりをもつような地域になると良いと思いますか。 (以降、全てコロナ禍終息後における意向調査となります)	1: 定期的または継続的に訪問・滞在して関わる地域になると良い 2: 訪問・滞在はせずに応援する (追加)3: 今後の見通しがつかないため分からない (追加)4: 上記以外(自由記入欄あり)
Q: この地域を訪問し、どのように過ごしたいと思いますか。 →(変更)コロナ禍終息後において、この地域を訪問し、どのように過ごしたいと思いますか。	1: 地域ならではの飲食や買い物(地場製品の購入等) 2: 自分の趣味や地域の環境を楽しむ活動 3: 本業として普段行っている業務や仕事(テレワークなど) 4: 本業とは異なる仕事(副業や兼業など) 5: 地元の企業・事業所での労働 6: 農林漁業等での労働 7: 地域に新たな仕事(産業)を創出するなどの活動への参加 8: 祭りや地域体験プログラム等への参加 9: 地域のボランティアや共助活動への参加 10: 教養・学習の場への参加 11: 地域の人との交流・コミュニケーションを楽しむ、人脈をつくる 12: 地域の交流拠点などで創発されるプロジェクトやコミュニティへの参加 13: 地域のまちおこしにつながるようなプロジェクトの企画・運営、または協力・支援など 14: その他、特に行ってみたい活動(自由記入欄あり) 15: 特に何もしないで過ごしたい 【変更】訪問先での過ごし方に関する設問選択肢と同様
Q: この地域を「訪問しない理由」を教えてください。 →(変更)コロナ禍終息後において、この地域を「訪問しない理由」を教えてください。	1: 時間的な負担が大きい 2: 経済的な負担が大きい 3: 体力的な負担が大きい 4: 自分にとってのメリットが感じられない 5: 有給休暇を取りにくい 6: 同居の家族や同行者の理解を得るのが難しい 7: 地域のことに興味・関心がない 8: 他にやりたいこと、やるべきことがある 9: 特に理由はない 10: その他(自由記入欄あり)

31. 非訪問系(オンライン関係人口)に対する設問

- 一次調査における「地域との関わり方」に関する設問において、オンライン関係人口を新規追加したため、二次調査においてもオンライン関係人口に対する設問を追加。

■オンライン関係人口(非訪問系)への設問

Q1:オンライン(zoom、Slack等)を活用して関わっている特定の地域名を選択してください。

都道府県 市区町村

Q2:この地域とのオンラインでの関わりは、どの程度の頻度で実施していますか。

- 1:ほぼ毎日
- 2:1週間に数日・数回程度
- 3:1週間に1日・1回程度
- 4:1カ月に1～数日程度
- 5:不定期(多いとき、少ないときなど様々)
- 6:その他(自由記入欄あり)

Q3:この地域とのオンラインでの関わりは、どのような理由やきっかけで始めましたか。(複数回答)

分類	選択肢
PUSH要因	1:出生・出身、居住経験、地縁・血縁などの所縁があり、馴染みがあった 2:観光・仕事・学校行事などで関係のある地域だった
PULL要因	3:友人・知人等から紹介された 4:地域に対して憧れや好感、関心、共感を持った 5:地域のまちづくりや活性化の取り組みなどに共感し、貢献したいと思った 6:地域を対象としたオンラインイベントに参加した 7:特に理由やきっかけはない 8:その他(自由記入欄あり)

32. 関係人口の実態把握に係る今後のスケジュール（案）

